

## 節分の日が動き出す

豆まきなどの行事でおなじみの節分、節分はいつかと聞かれたら2月3日と答える人も多いだろう。しかし、この日付は固定ではなく、令和3年(2021)には2月2日となる。3日でなくなるのは昭和59年(1984)2月4日以来37年ぶり、2日になるのは明治30年(1897)2月2日以来124年ぶりのことである。どうしてこのようになるのか、簡単にまとめておこう。

節分は季節を分けるという意味の雑節で、本来は各季節の始まりである立春・立夏・立秋・立冬の前日それぞれを指すはずだが、そのうち立春の前日だけが残ったものとされている<sup>1</sup>。つまり、立春が定まれば節分もその前日として定まるわけだ。

では立春はというと、春分や秋分と同じく二十四節気の1つであるから、2012年のトピックスで説明した秋分と同じ理屈で同じように変動する。すなわち、1年ごとでは1太陽年365.2422日と1年365日の差～約6時間ずつ遅くなる一方、うるう年には4年前より少し早くなる、というパターンだ(図1)。

こうして、しばらく2月4日の中に納まっていた立春の日が令和3年には2月3日へ移り、その前日たる節分も連動して2月2日へ移ったという次第である。

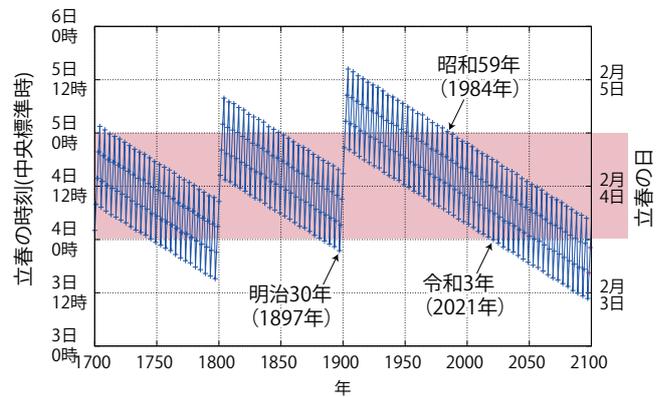


図1: 立春の推移

<sup>1</sup>これは立春が太陰太陽暦の正月に近く、年の変わり目の意味合いが強いからと言われる。